

台湾ワークショップ体験記

未来構想デザインコース2年 山田みらい

1. 出発前の準備

国際プログラムの一環として春休みに台湾でのワークショップに参加しないかと誘いがきたのは2年生の夏休み前。国際プログラムの授業が始まった頃だった。20年間の人生でまだ日本から出たことがなかった私はもちろん即答。留学前に海外で一週間も生活できるなんて、絶対に逃してはいけないチャンスだと思ったのだ。

そこから準備のために動き出したのは、9月。パスポートを取った。その後、授業や芸工祭に追われる中、先生たちからアナウンスが入る。11月によくホテルと航空券をセットで取った。早く予約すればするほど安くなる。また気持ちも安心する。良いことしかない。そして出発の1週間前、SIMカードの購入と海外保険に入った。当初、SIMカードは複数人で1つ買ってポケットWi-Fiを共有する予定だったが、はぐれた時にインターネットが使えないのは困るのでは？と思い、個人用のSIMカードを買った。初めての海外なので、いろいろ用意して損はない。お財布をリュックに繋ぐチェーンも買った。

〈費用〉

航空券+ホテル	¥70000
海外旅行保険	¥2000
SIMカード	¥2400
食費+交通費+入場料	¥30000

台湾のワークショップは、国際プログラムの顔の知れた仲間と参加する。飛行機も隣の席で、ホテルも相部屋で取って、授業も観光も一緒。先生たちも定期的に声をかけてくれ、気軽に相談できる距離感だった。だから、出発前の不安はほとんどなかった。

しかし、それでも何かしらのトラブルは起こるもの。念には念を、である。

2. 台湾での7日間（生活編）

福岡発の飛行機の3時間前に空港入り。空港のコンビニで最後の日本食となるみたらし団子を食べ腹ごしらえ。ところが、私が乗った飛行機は機内食のサービス付きだった。お腹は空いていなかったが、機内食は美味しかったのでペロリと完食。2、3時間ほどで台湾に着いた。いくつかの検査を抜け、3万円ほど両替した後、空港内でSIMカードを受け取る。ここで問題発生。みんなで使用するポケットWi-FiがSIMカードを入れても使えない。（次の日使えるようになった。）ここで私の個人SIMカードが役に立った。現代人の私たちは、知らない場所を歩く時にはスマホが生命線となることを忘れてはいけない。ホテルは、日本を基準にしているとショックを受けると思うが、2～3日すれば慣れてくる。

台湾では、もちろん3食外食になるが、出費や場所探しにあまり心配することはない。というのも、台湾は外食文化で夜市が日常的であるため、外を三歩歩けばご飯屋さんがある。しかも安くて美

美味しい。滞在中はいろんな夜市に訪れ台湾料理を食べた。現地の学生さんにもおすすめの場所に連れて行ってもらった。中でも魯肉飯が美味しかった。

3. 台湾での7日間（学校編）

台湾でのワークショップは、そこまでお堅いものではなく、国立台湾師範大学（NTNU）の学生さんたちと楽しい4日間を過ごした。テーマはSTEAM教育について。1日目はアイスブレイクと小学校への訪問。2日目は高校への訪問と課題探し。3日目はSTEAM教育を参考にした新しい授業の提案。4日目は発表。3日目と4日目は半日だった。チームは日本の学生と台湾の学生が半々くらい。チームでの話し合いはもちろん英語。IPの授業はグループワークやプレゼンテーションの面で役に立つが、前提として自分で英語力を鍛えておかなければ言いたいことは言えない。グローバルなチーム活動をした時は毎回悔しい気持ちが50%くらい残って終わるが、それは今回も例外ではなかった。そうやって毎回試行と反省を繰り返して英語学習を続けていきたい。とは言っても、日常的な会話はすごく楽しかった。何より、みんなとても親切でおしゃべりで、授業終わりに学校内の美術館や図書館に案内してくれたし、美味しいご飯屋さんに連れて行ってくれた。印象的なことは、日本語を話せる学生が数人いたことだ。日本国外で日本語を話せるとすごく嬉しい。それは、逆も然りで、私も留学するために現地の言葉を習得したいと思った。言語は、相手への敬意であり、仲良くなるための一番の手段だと思うからだ。

4. 台湾での7日間（観光編）

この7日間は自由時間がたくさんあったため、いろんな場所へ行った。特に、台北当代美術館と台北市立美術館は芸工生だったらみんな興奮する場所。建物の構造や作品の雰囲気も、日本と全然違って面白い。日本では見られない展示会を見る事ができ、入場料も安いのでおすすめ。

台湾の学生さんたちに、千と千尋の神隠しの舞台となっている九份に行きたいと言ったら、ドライバーの手配やご飯屋さん、道案内などとても親切にしてくれた。交通費もおまけしてくれ、ご飯も人気店から現地の伝統の味まで食べられ、行きたかった場所まで迷わず行くことができ、至れり尽くせりであった。知らない場所を歩くなら、スマホの情報よりも現地の方に頼るのが良い。また、彼らが日本に来る時は私たちが同じように日本を案内すると約束した。

5. 帰国、そして留学に向けて

家に着くまでが遠足というのはその通りで、帰りの飛行機の中でSIMカードを交換していたら、日本のSIMカードを落としてしまった。狭い機内ではなかなか見つからず、かなり焦った。結局カバンの中から出てきた。大事な作業は、揺れない席でしようと反省した。

そういえば、台湾での最後の日、お土産で買ったポストカードを日本の家族に向けて書いた。しかし、台湾の郵便局は土日には空いておらず、切手もどの店にも売っていなかった。台湾から国際便のポストカードを出すことは諦めざるを得なかった。最後に一つ心残りができてしまったが、次は3年次の留学の時にリベンジしたいと思う。



台湾の美術館にて



ワークショップ最終日



九份への観光